

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101752		
法人名	株式会社百百		
事業所名	グループホーム「笑がお」		
所在地	甲府市羽黒町1461-1		
自己評価作成日	平成22年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年2月9日(水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑がお」を理念に、その方らしさを大事にしなが、より多くの喜びを味わってもらおうと、家に閉じ込めることなく、野外活動を行っている。地域の行事にも毎年、積極的に参加して交流を図っている。羽黒地区の文化祭に毎年出展していた作品が今年は奨励賞を頂き、利用者の励みになっている。地域ボランティアの皆様とも毎月交流させてもらい、地域に守られ、育てていただいている「笑がお」です。また、開設以来看取りと真摯に向き合ってきましたが、事例を通して教えられることは多く、職員は「人を思いやる心」を養い、その度に成長しているように思う。最終ステージとして選んだ「家」で、不安や苦しみがなく、家族と最後の営みが送れるよう、これからも看取りをサポートしていきたいと思う。

南向きの斜面の2階建ての建物は眼下に甲府市を見下ろし、遠くには富士山が見える。すぐそばの山からは季節を感じ、この景観に浸っているだけでも心が和まれる。午前中の散歩を毎日の日課とし、地域の中ですっかり溶け込んでいる。90歳以上で5名も散歩が可能という事から毎日の散歩の成果が見られ、利用者の足腰は強い。中には重度の利用者もいるが、看取りの体制が出来ており、本当に最後まで生活が出来るという安心感がある。入浴は今までの生活習慣である夜間の入浴を実施している。利用者の生活を中心とした職員の勤務体制がしっかり出来ている。ホームの中は職員よりも利用者の声や動きがある。利用者に寄り添ったケアを実践してきた結果と思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム「笑がお」

[セル内の改行は、(Altキー) + (

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑がお」を理念として、地域の中でその方らしく生き生きと生活出来るように、カンファレンスや勉強会・リーダー会議等で方針を共有し、スタッフが一丸となって支援している。	「笑がお」を理念として、地域の中でその方らしく生き生きと生活出来るように、カンファレンスや勉強会・リーダー会議等で方針を共有し、スタッフが一丸となって支援している。	事業所名と同じ理念の「笑がお」は、利用者の心からの笑顔が引き出せる様にと職員同士の思いを意味している。その為に地域との関わりを持ち、家庭的な雰囲気のあるホーム作りにも努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として馴染みの関係で、日頃の野外活動も含めて、地域の行事には全て参加しながら交流を図っている。また、職員も地域の方が多く、気軽に地域と関われる環境がある。	自治会の一員として馴染みの関係で、日頃の野外活動も含めて、地域の行事には全て参加しながら交流を図っている。また、職員も地域の方が多く、気軽に地域と関われる環境がある。	町内で実施される「ふれあいまつり」「文化祭」「厄地蔵」「運動会」などに参加し、事業所の「納涼会」「節分」などの行事には町内のボランティアが訪れる。毎日の散歩も地域とのふれあいの機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアや、介護サポーター制度によるボランティアの受け入れ、地域の集い等により、認知症の理解や支援方法を、地域の人々に発信し、いつでも気軽に来訪してもらえるように地域の方に働きかけている。	地域のボランティアや、介護サポーター制度によるボランティアの受け入れ、地域の集い等により、認知症の理解や支援方法を、地域の人々に発信し、いつでも気軽に来訪してもらえるように地域の方に働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「笑がお」の方針に沿って活動状況報告をし、野外活動やひやりはっと、看取りなどその時々テーマにより皆さんから意見を頂き、私たちに何が出来るかカンファレンス等で話し合いながら、サービス向上に活かしている。	「笑がお」の方針に沿って活動状況報告をし、野外活動やひやりはっと、看取りなどその時々テーマにより皆さんから意見を頂き、私たちに何が出来るかカンファレンス等で話し合いながら、サービス向上に活かしている。	メンバーの中に地域のボランティアもいる。「散歩中にゲートボールの場所のベンチを使うと良い」「防災の日小学校との避難訓練は？」「認知症の利用者の対応方法」などのアドバイスを頂いて参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価結果を報告し、事業所で抱えている課題について助言を頂きながら、ホームの役割を共有し、地域包括支援センターや甲府市の介護サービス向上委員会をとおして意見交流を図っている。	外部評価結果を報告し、事業所で抱えている課題について助言を頂きながら、ホームの役割を共有し、地域包括支援センターや甲府市の介護サービス向上委員会をとおして意見交流を図っている。	市の介護サポーターを受け入れたり、医療との連携についての研修会の発案をしたりするなど、日常的に交流を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為の創意工夫については、事例検討やカンファレンスの場で意思統一を図ったり、マニュアルに沿って勉強会を開催して、尊厳ある関わりが持てるように、全職員が常に意識を持ってケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない為の創意工夫については、事例検討やカンファレンスの場で意思統一を図ったり、マニュアルに沿って勉強会を開催して、尊厳ある関わりが持てるように、全職員が常に意識を持ってケアに取り組んでいる。	何が身体拘束に当たるのか全職員が熟知しており行っていない。外に出ていこうとする利用者には付き添って散歩している。スピーチロックをしないよう、表情を見ながら話しかけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修会の参加や職員間の勉強会でマニュアルの理解を深めながら、身体拘束同様に徹底している。	外部研修会の参加や職員間の勉強会でマニュアルの理解を深めながら、身体拘束同様に徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会の参加で学ぶ機会を持ち、内部で研修会の報告会を開催して知識を得ながら、必要に応じて支援している。	外部研修会の参加で学ぶ機会を持ち、内部で研修会の報告会を開催して知識を得ながら、必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明をして、不安や疑問点を尋ねながら理解や納得を図っている。その後も理解し得なかったことについては、その都度説明しながら信頼関係を構築している。	契約時に十分説明をして、不安や疑問点を尋ねながら理解や納得を図っている。その後も理解し得なかったことについては、その都度説明しながら信頼関係を構築している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に気軽に意見や要望が聞けるように、年間計画の取り組みとして職員が関わりを多く持ち、こまめな相談をしながらニーズの確認をしている。また、運営推進会議や、ケアプラン更新時にカンファレンスに同席して頂きながら、運営に反映させている。	面会時に気軽に意見や要望が聞けるように、年間計画の取り組みとして職員が関わりを多く持ち、こまめな相談をしながらニーズの確認をしている。また、運営推進会議や、ケアプラン更新時にカンファレンスに同席して頂きながら、運営に反映させている。	常に開放されている事務所が玄関のそばにあり、中の丸テーブルは気軽に面会の家族が座って話が出来ると雰囲気である。「散歩は足腰が強くなるので継続して欲しい」というような要望があったが意見箱に特別な意見が入れられることはない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合いが持てる環境作りに配慮しながら、カンファレンスでの意見や提案には前向きに検討している。また、定期的に個人面接の時間を設けて意見を聞き前向きに反映している。	日常的に話し合いが持てる環境作りに配慮しながら、カンファレンスでの意見や提案には前向きに検討している。また、定期的に個人面接の時間を設けて意見を聞き前向きに反映している。	朝晩の引継ぎ時、月2回のカンファレンス・月1回のリーダー会議などでいつでも自由に意見を出している。手すりの設置などのハード面から研修が多すぎるなど職員の勤務的な事まで意見は多い。	実際には研修や会議を行っているのにそれらの報告書を作成するまでに至っていない。時間が無駄にならない様に必要な事を簡単明瞭に記録していく習慣が出来る事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面接や日頃の関わりの中で、個々の評価をしながら、目標が持てるようにニーズを常に確認し、向上心を持って働けるように処遇改善を図っている。	定期的な個人面接や日頃の関わりの中で、個々の評価をしながら、目標が持てるようにニーズを常に確認し、向上心を持って働けるように処遇改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な個人面接を通して、思いを聞きながら資格取得や、努力成果について評価し、やりがいや向上心が持てるように努めている。また、外部研修は可能な限り希望を募っていけるように努め、法人内の学習会も6年目で内容も充実している。	定期的な個人面接を通して、思いを聞きながら資格取得や、努力成果について評価し、やりがいや向上心が持てるように努めている。また、外部研修は可能な限り希望を募っていけるように努め、法人内の学習会も6年目で内容も充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の役員をしている関係で、会員のニーズに沿って研修会を企画したり、スタッフも情報交換する機会として研修会に参加しながら相互の交流を図っている。また、個別に他グループホームと交流研修もしている。	グループホーム協会の役員をしている関係で、会員のニーズに沿って研修会を企画したり、スタッフも情報交換する機会として研修会に参加しながら相互の交流を図っている。また、個別に他グループホームと交流研修もしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問やグループホームへの見学等しながら、時間をかけて馴染みの関係を築き、思いを知り、何でも聞かせていただいて、受けとめる努力をしている。また、初期プランには「思いを知る」を目標にコミュニケーションに費やしている。	入居前に自宅訪問やグループホームへの見学等しながら、時間をかけて馴染みの関係を築き、思いを知り、何でも聞かせていただいて、受けとめる努力をしている。また、初期プランには「思いを知る」を目標にコミュニケーションに費やしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用して本人を知ることから初め、要望やニーズを収集し、暫定プランを確認してもらいながら、お話を聞かせていただき、思いを受けとめる努力をしている。	アセスメントシートを活用して本人を知ることから初め、要望やニーズを収集し、暫定プランを確認してもらいながら、お話を聞かせていただき、思いを受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設している認知症対応型デイサービスの相談員と共に必要としている支援を見極めながら、本人や家族と共に検討し、必要とするサービス利用につなげている。	併設している認知症対応型デイサービスの相談員と共に必要としている支援を見極めながら、本人や家族と共に検討し、必要とするサービス利用につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごしえあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちに向き合い、寄り添いながら馴染みの関係づくりをしている。なんでも語り合いながら、人生の先輩としていろいろ相談したり、教えてもらったりと「疑似家族」として支え合いながら、喜びも悲しみも分かち合っている。	本人の気持ちに向き合い、寄り添いながら馴染みの関係づくりをしている。なんでも語り合いながら、人生の先輩としていろいろ相談したり、教えてもらったりと「疑似家族」として支え合いながら、喜びも悲しみも分かち合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな些細な事であってもご意見を聞き、こちらでの生活状況をお伝えしながら、一緒に考えてもらい役割を分け合い、共に支えていく関係を築いている。	どんな些細な事であってもご意見を聞き、こちらでの生活状況をお伝えしながら、一緒に考えてもらい役割を分け合い、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの人との交流が継続出来たり、お茶の習い事に継続して通ったり、家に行かれたり、友人に買い物の同行してもらったり等希望に応じて柔軟に対応している。	家族の協力を得て、馴染みの人との交流が継続出来たり、お茶の習い事に継続して通ったり、家に行かれたり、友人に買い物の同行してもらったり等希望に応じて柔軟に対応している。	地域の利用者が多く、友人と電話や手紙でのやりとりがある。電話は子機を利用している。クリスマスには教会の方がホームに来てくれた。モップ掛け・ゴミ出し・土いじりなど今までの生活が継続出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方らしさを尊重しながら、気の合う者同士の支え合う関わりを大事にし、家族としての役割をお願いし、行動を共にしながら仲間意識を自然に持っていただいて、互いが認めあって支え合えるように配慮している。	その方らしさを尊重しながら、気の合う者同士の支え合う関わりを大事にし、家族としての役割をお願いし、行動を共にしながら仲間意識を自然に持っていただいて、互いが認めあって支え合えるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談もあり、必要に応じて他事業所やケアマネジャーと連携しながら支援している。また、亡くなられた方の家族との関係性も継続していて、思い出話をしている。	家族からの相談もあり、必要に応じて他事業所やケアマネジャーと連携しながら支援している。また、亡くなられた方の家族との関係性も継続していて、思い出話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用してその方を知り、また、関係性の中から思いや希望を把握し、カンファレンスで何をしたら喜んでくれたか、どんなことで不快な顔をしたか等、些細なことから情報を共有して、スタッフ間で把握している	アセスメントシートを活用してその方を知り、また、関係性の中から思いや希望を把握し、カンファレンスで何をしたら喜んでくれたか、どんなことで不快な顔をしたか等、些細なことから情報を共有して、スタッフ間で把握している	失語症やコミュニケーションが取りづらくなった利用者に対しては、非言語的コミュニケーションによりその内なる思いを知る事が出来る感性を磨く様に皆で努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に出向き、アセスメントシートを利用しながら生活環境や暮らし方を理解し、その方らしい暮らし方の継続が、可能な限り出来るように把握している。	入居前に自宅に出向き、アセスメントシートを利用しながら生活環境や暮らし方を理解し、その方らしい暮らし方の継続が、可能な限り出来るように把握している。		
25		○暮らしの現状の把握一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや日常生活動作の出来ること出来ないこと、楽しそうにやった事等、カンファレンスや申し送り共有しながら、暮らしの現状の把握に努めている。	生活リズムや日常生活動作の出来ること出来ないこと、楽しそうにやった事等、カンファレンスや申し送り共有しながら、暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフ間で情報を共有して、その人らしく生活するための課題をワークしながら、日頃の様子を記録している。それをもとに、より具体的で分かりやすい介護計画を作成しながら、全スタッフがカンファレンスでモニタリングを行っている。	家族やスタッフ間で情報を共有して、その人らしく生活するための課題をワークしながら、日頃の様子を記録している。それをもとに、より具体的で分かりやすい介護計画を作成しながら、全スタッフがカンファレンスでモニタリングを行っている。	入居時にはケアマネジャーが作成した暫定ケアプランを本人・家族に説明し、同意を得ている。1か月後に職員全員で評価し(出来る事・出来ない事の見極め)、本人・家族参加のカンファレンスを行い、再アセスメントしてプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はプランに沿って記録している為、気づきや考え、工夫点が考察出来ていて、それをもとにモニタリングしている為、情報が共有しやすくなっていて、プランの見直しに活かしている。	介護記録はプランに沿って記録している為、気づきや考え、工夫点が考察出来ていて、それをもとにモニタリングしている為、情報が共有しやすくなっていて、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて通院介助や在宅治療の援助、生活リハビリの実践、看取り等、特に医療面でのニーズは、その時々で柔軟に対応している。	必要に応じて通院介助や在宅治療の援助、生活リハビリの実践、看取り等、特に医療面でのニーズは、その時々で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭・運動会・お祭り・敬老会等、集団で参加するものや日常的には買い物や散歩を楽しんでいて、地域のボランティアグループとの交流も毎月楽しみにしている。	地域の文化祭・運動会・お祭り・敬老会等、集団で参加するものや日常的には買い物や散歩を楽しんでいて、地域のボランティアグループとの交流も毎月楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設当初から看取りに取り組んでいる為、希望を聞きながら納得のいく形で看取りをして下さる主治医の変更をしている。医師との関係を築きながら終末期に対応できるように支援している。	開設当初から看取りに取り組んでいる為、希望を聞きながら納得のいく形で看取りをして下さる主治医の変更をしている。医師との関係を築きながら終末期に対応できるように支援している。	ホームに往診してくれる医師が3名いる。受診については原則として家族対応となっているが、職員が付き添う事が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、申し送りの中での気づきや発見など、詳細にわたって相談し、適切なアドバイスを受けながら、看護師の指示のもとケアや受診につなげている。	毎朝、申し送りの中での気づきや発見など、詳細にわたって相談し、適切なアドバイスを受けながら、看護師の指示のもとケアや受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より早期退院について医師と相談をし、早い時期から迎え入れる準備をしながら、家族や病院関係者と協働している。また、必要に応じては通院治療に切り替えることもある。	入院時より早期退院について医師と相談をし、早い時期から迎え入れる準備をしながら、家族や病院関係者と協働している。また、必要に応じては通院治療に切り替えることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族の希望を確認し、事業所で出来ることを十分に説明した上で、終末期対応について方針を共有し、重度化した時は、その都度意向の確認をしながら、家族・全職員・医療関係者と共に看取りに取り組んでいて、8名の事例がある。	入居時より家族の希望を確認し、事業所で出来ることを十分に説明した上で、終末期対応について方針を共有し、重度化した時は、その都度意向の確認をしながら、家族・全職員・医療関係者と共に看取りに取り組んでいて、8名の事例がある。	「家庭的な雰囲気のあるホーム」という取り組みから看取りを行っている。看取りケアのマニュアルも作成しており、勉強会を開催し、研修にも参加している。管理者が看護師なので職員は心強い。開設当初から8名の看取りをして来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や外部研修会などを通して学びの場を提供しながら、臨床の場では日常的に「ひやりはっと」や事故発生時に備えてのシミュレーションをしている。	定期的な勉強会や外部研修会などを通して学びの場を提供しながら、臨床の場では日常的に「ひやりはっと」や事故発生時に備えてのシミュレーションをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中・夜間を想定した避難方法を学びながら、地域の消防団とも連携して避難方法を伝授してもらっている。また、地域の防災訓練にも参加している。	年に2回、日中・夜間を想定した避難方法を学びながら、地域の消防団とも連携して避難方法を伝授してもらっている。また、地域の防災訓練にも参加している。	IHの調理器なので火災の心配は少ない。訓練のマニュアルはあり、2階には救助袋が用意されている。地域との関わりがあるので集中豪雨の時には心配して来てくれた。職員の家が近いのはいざという時に頼もしい。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を知るためのアセスメントシートを活用しながら理解を深め、人格を尊重するようなコミュニケーションを心掛けていて、自尊心を持って生活出来るように、日頃から意識を持って取り組んでいる。また、個人の情報も保護されている。	その方を知るためのアセスメントシートを活用しながら理解を深め、人格を尊重するようなコミュニケーションを心掛けていて、自尊心を持って生活出来るように、日頃から意識を持って取り組んでいる。また、個人の情報も保護されている。	利用者一人ひとりの歴史は全職員が熟知しており、個別のコミュニケーションづくりに努力している。コミュニケーションづくりについては職員研修を多くしている。利用者の動きに職員が合わせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から関わりを大切にしている、個々の力に合わせてコミュニケーションをとり、自身で思いや希望を表わせるように傾聴し、可能な限り自己決定をして頂けるように配慮している。	日頃から関わりを大切にしている、個々の力に合わせてコミュニケーションをとり、自身で思いや希望を表わせるように傾聴し、可能な限り自己決定をして頂けるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々のペースに沿って対応していて、お昼近くに起きられる方も増えている。買い物に行く方、散歩する方、日向ぼっこをする方、新聞を読む方、テレビを見る方等半日だけでも様々である。	個々のペースに沿って対応していて、お昼近くに起きられる方も増えている。買い物に行く方、散歩する方、日向ぼっこをする方、新聞を読む方、テレビを見る方等半日だけでも様々である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は一緒に洋服選びをして、自身で決めてもらえるように働きかけたり、洗面台では愛用のクリームや紅をお渡ししたり、外出時はお気に入りのマフラーや帽子をお勧めしたり等支援している。	起床時は一緒に洋服選びをして、自身で決めてもらえるように働きかけたり、洗面台では愛用のクリームや紅をお渡ししたり、外出時はお気に入りのマフラーや帽子をお勧めしたり等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から野菜の皮むきや食材切り、味付けなど、個々の得意分野で腕を振るい、食後は出来ない方の分も食器を台所に運んだり、食器を洗ったりと食事を楽しみながら役割を發揮している。	日頃から野菜の皮むきや食材切り、味付けなど、個々の得意分野で腕を振るい、食後は出来ない方の分も食器を台所に運んだり、食器を洗ったりと食事を楽しみながら役割を發揮している。	午前中は散歩の時間に里を直ぎ、主に夕食作りに関わってもらい出来る事は積極的にしてもらおう。外食に行く前にメニューを眺めて楽しんだり、出前を取ったり、おにぎり持参で出かけたり、変化ある食事支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて食事量・水分量のチェックをして、医師の指示のもと、嗜好品をとりいれながら栄養バランスの確保に努めている。	必要に応じて食事量・水分量のチェックをして、医師の指示のもと、嗜好品をとりいれながら栄養バランスの確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方が多く、うまく訴えられないことがある為、口腔ケアはよくカンファレンスのテーマにもなっていて、個々の状態に合わせて清潔保持が出来るようにケアしている。	義歯の方が多く、うまく訴えられないことがある為、口腔ケアはよくカンファレンスのテーマにもなっていて、個々の状態に合わせて清潔保持が出来るようにケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別な排泄パターンを知り、職員間で共有しながらトイレに導くようにし、可能な限りトイレで排泄出来るよう働きかけたことで、入居時に比べ自立の支援が出来ている。	個別な排泄パターンを知り、職員間で共有しながらトイレに導くようにし、可能な限りトイレで排泄出来るよう働きかけたことで、入居時に比べ自立の支援が出来ている。	2名がおむつ使用・6名はリハビリバンクにて個別に声かけ誘導している。他の利用者は自立出来ている。便秘気味な利用者には、プルーンを提供したりトイレに座る習慣をつけるなど下剤は服用しない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材・水分・運動が兼ね備えているかアセスメントしながら、個々に応じて補うようにしている。また、便秘がちの方は、食後のデザートに果物以外にプルーンを出している。	食材・水分・運動が兼ね備えているかアセスメントしながら、個々に応じて補うようにしている。また、便秘がちの方は、食後のデザートに果物以外にプルーンを出している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添って入る方、症状によってタイミングで入る方、重度化で複数介助で浴槽に入る方等様々ですが、時間をかけてゆっくりと入って頂けるように個々に沿っている。	希望に添って入る方、症状によってタイミングで入る方、重度化で複数介助で浴槽に入る方等様々ですが、時間をかけてゆっくりと入って頂けるように個々に沿っている。	今までの生活の様子を聞いて、全員夜間に入浴を実施している。その時々利用者の状態に合わせて浴室の手すりをつけたり、多様な福祉用具を使い、重度の利用者も入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に沿って午睡する方、夜更かしをする方、朝寝坊の方等様々ですが、状況に応じて対応している。また、必要に応じては、安心して眠れるように扱い寝をすることもある。	個々の生活習慣に沿って午睡する方、夜更かしをする方、朝寝坊の方等様々ですが、状況に応じて対応している。また、必要に応じては、安心して眠れるように扱い寝をすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員により説明を受けながら、服薬支援をしていて、分からないことは何でも聞ける環境がある。	看護職員により説明を受けながら、服薬支援をしていて、分からないことは何でも聞ける環境がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントに基づいてその方を知り、楽しめるようにプランに反映している。また、個々の力を活かした役割により、張り合いが持てるように、職員間で共有しながら支援している。	アセスメントに基づいてその方を知り、楽しめるようにプランに反映している。また、個々の力を活かした役割により、張り合いが持てるように、職員間で共有しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から雨が降らない限り、冬でも散歩を欠かさず、すっかり生活習慣になっていて、地域の屋外に出る行事も積極的で楽しみの一つとなっている。また、個別には買い物や自宅へ立ち寄られたり、外食をしている。	日頃から雨が降らない限り、冬でも散歩を欠かさず、すっかり生活習慣になっていて、地域の屋外に出る行事も積極的で楽しみの一つとなっている。また、個別には買い物や自宅へ立ち寄られたり、外食をしている。	午前中の散歩は3つのコース(長・中・短)に分かれていて、その日・その利用者の状態に合わせて実施している。坂道も多いので「足腰が強くなった」と喜ばれている。決められた散歩以外の時間も思いを察知した時には個々に同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で財布を持っている方は半数以上いて、家族にお金の管理をして頂いている。使う頻度は少ないが、買い物時嗜好品に使ったり、散歩の帰りに、自動販売機で好きな飲料水を買ったりしている。	本人の希望で財布を持っている方は半数以上いて、家族にお金の管理をして頂いている。使う頻度は少ないが、買い物時嗜好品に使ったり、散歩の帰りに、自動販売機で好きな飲料水を買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたたり、また、知り合いからかかってきて取り次いだりしている。また、手紙も代筆するなどして支援している。	希望に応じて電話をかけたたり、また、知り合いからかかってきて取り次いだりしている。また、手紙も代筆するなどして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や観葉植物、山々の四季、台所からの匂いや音、居間から流れる音楽、鳥や猫等、五感で心地よさを感じ取れるように配慮している。	季節の花や観葉植物、山々の四季、台所からの匂いや音、居間から流れる音楽、鳥や猫等、五感で心地よさを感じ取れるように配慮している。	ガラス張りの食堂からの眺望はすばらしい。ホーム内は観葉植物などが多く、インコや通いの猫・犬もいてアットホームな雰囲気である。営繕専用の職員がいて共用スペースの掃除がゆき届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるが、仲間で過ごせるイスの配置場所を工夫したり、玄関先や事務所など、一人になる空間に配慮している。	限られた空間であるが、仲間で過ごせるイスの配置場所を工夫したり、玄関先や事務所など、一人になる空間に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、本人や家族と連携して、馴染みの品々をご用意いただくため、家具や調度品、小物に至るまで好みのものを準備していただいている。	入居前に、本人や家族と連携して、馴染みの品々をご用意いただくため、家具や調度品、小物に至るまで好みのものを準備していただいている。	その人らしい居室になっている。入居したその日に今まで使っていた馴染みの物に囲まれ過ごせる事は何よりの安心感につながる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置、イスの座り心地、自分の居場所づくりなど、安全な環境に配慮するように「ひやりはっと」の分析時等に職員間で創意工夫している。	手すりの位置、イスの座り心地、自分の居場所づくりなど、安全な環境に配慮するように「ひやりはっと」の分析時等に職員間で創意工夫している。		